



經要覽

之



廿四
六

服部文庫
117
284
1



117
284
1

經要覽上



徠先生口授

門人 平義質筆受

古ノ學問トハ先聖先子ノ道ヲ学フヲ云ナリ
先王ノ道ハ六經ニ載セテ傳ヘリ六經ハ詩書礼
樂ヲ説タルモノナレハ古ノ學問ハ詩書礼樂ヲ
学フヨリ外ノコトハナシ詩書礼樂ノ四教トハ云
ナリ或ヒハ四術トモ稱ス左傳ニ詩書者義
ノ府也礼樂者德之則也トアリテ凡ソ此ノ

四ツノ教ハ行ノ本トナリ徳モコレヨリ生シ君子
トナルトナレハ學スニハアルヘカラサル者ナリ
後世ノ如ク注解ヲ穿鑿シ字義ヲ議説
スルヤフナルトニテハナシ宋ノ諸老先生ハ古
ヘノ事ヲ知ラスシテ今ノ世ノ學問ト同事ニ
思テ學之爲言效也ト朱子モ論シテ只聖人
ノ真似ヲスルヲ學問ト心得タリ笑フヘキト
ナラスヤ旦又大切ナル要領タル六經ヲ抄ス
テ別ニ四書ト云モノヲ立テ、コレヲノミ誦記

サセ其業終レハ又小學近志録ナト云ヤウナ
無益ノ書ヲコシテ、テ六經ヲナケカ、口ニシ公
然トシテ忌憚ルトモナク學問モ別ニ一流ナ
ルトナ起シ詩文ナ、~~其~~ノ學ハ長物ト心得テ詞
章記誦ナト、云フラシ喪物喪志トアルヲコ
タテニトリテ只タ執拗偏氣ノ受ノミヲ説
キ聖人云モノハ只人欲盡キテ天理ヲ全ク
得玉ヘル人ナリト心得テ聖人ニモ學ニナリ
ナラズ、者ト思フハ已レカ臆説ニテ學者ノ

風カニモ置クキ者ニアラス故ニ四書五經ノ
新注大全ナト宋儒ノ著撰セル書ハ著
テ却テ大ナル害トナルユ見サルヲ以テ可ト
ス予カ教ヘ示ストコロハ全ク臆断ニアラス
學ヲ古ヘ復シテ先六經ヲ明カニセンコトヲ
スム六經カ明ラユニテテチカアカスハ先王孔
子ノ道ヲ學フトハ云ハレサルナリ孔子ノ時
分ハ詩ト書トヨリ外ニ書物ハナシ論語礼
記孟子ナトニ引用タルモ外ノ書トテハナク

只詩曰書曰トノミアルナリ論語ニ不學詩
無以言トアリ又學詩三百使四方ニ不能專
對トアリ詩經ニ人情ニ通達セシムルモノナ
リ多識禽獸草木之名トアルコトク諸物
諸事コレニ漏タルハ少シ書ハ先王ノ典法ナリ
サレトモコレラハ皆古書ナレハ古言多テ古文
辭トテ古ノ文句ニテ後世ノ文句トハ大ヒ懸
隔セシユ一往ノ古又ニテハ中々以テ辨カズ
先古文辭ヲ知ラ子ハコカラヌナリ其古文

辞云云古書ヲ見ルノ法例アレドコレハ文卦文
考トトニ辨シ置タレハ今ハ論セス口ハ經書ヲ精
覽スルノ要心ヲ示スノミナリ經トハ經緯ノ經
ト注シテ布ノ縱縷ヲ經ト云横ノ縷ヲ緯ト云
布ノ經ハ直通シテ本末ヲ貫ク者ナリ六經
モソノ如ク天下ヲ治先道ヲ示シ天下ヲ治ルニハ
六種ノ事アリテ各々其事ノ條理ヲ知スルニ
ニ經ト名ツケタルナリ六經ハ先聖王ノ天下ヲ治
ノ至ル道ナリ六經ト名ツクルトハ礼記經解

篇又サ莊子天下ノ篇ニ畧ソノ端ヲアラハセリ六
經ヲ六藝トモ云ナリ礼楽射御書數ヨハ六藝ト云
フトハ又別也學者混散シテ一ツニ思ヘルハアヤコリナ
リ史記ニ中国言六藝者折中於夫子ニト云ヒス
夫儒者以六藝ヲ爲法ト云ヘルハ皆六經ヲ云ナ
リ史漢ノ中ニ六經ヲ六藝ト云ルトコト多キ也鄭
玄ノ中庸ノ注ニ經ノ字ノ義ヲ明ニ辨セリ經
大綱領ニテ衆緯ヲ夾持スル義ヲ以テ
經礼三百曲礼三千ト礼記ニ云ヘルモ經礼ト

テヲモナル礼ノ数カ三百餘アル其經礼ニ又各々ヨ
セケケシタル小節目アリタトハ升降趨走坐立
拜揖進退周旋勤靜ノタクヒカ三千餘
條アル故ニ曲礼三千ト云フ曲ハ委曲ノ曲ナリ中
庸ニ爲天下国家有九經ト云ヘルヲ經ト見ル
シコレ古文辭ノ同義所ナリ天下国家ヲ治ム
ルニ九ツノ大綱領アルト云ナリ又漢儒經ノ字ヲ
常ト訓シ聖人ノ經ハ萬古不易ノ常法ナリト解
スルハ是ナルトハ是ナレトイテ太古ヲシラス他書徴ス

レハ殊ニ通セス孔穎達ハ經者常也ト言事有典
法可常遵用也傳者釋經意傳示後人は是也ト
云又張華ハ博物志ニ聖人制作曰經賢人著
述曰傳トアルニ基キ宋ノ老儒專ラ主張シ
テ聖人ノ書ヲ經ト云ヒ賢人ノ書ヲ傳ト云フト説
論スレトコレ正義ニアラス經傳トワカツトハ文ノ
體ヲ以テ名クルトニテ聖賢ノ作述ヲ分弁スルト
ニハアラスサレハコソ易ノ十翼ハ孔子ノ作ナリ
文王周公ノ作玉(凡上下)經ヲ釋シ玉(ル工)ニ

コレヲ傳ト云フ水經ハ漢ノ桑欽カ作ニテ天下
ノ水ノ了ラ記タルヲ水經ト名ケ九方鼻ヲ相
馬經甯戚カ相牛經師曠カ禽經神農本草
經山海經ナト皆聖人ノ作ニテハナケレモ文體ヲ
以テ經ト名ツケタリ後世ノ花經茶經碁經
ナト云フモ皆コノ類ナリ是レヲ以テ見ルトキ
ハ朱子カ聖經賢傳ト云名目ヲ主張シ聖人
ノ言ヲハ何ニヨラス經ト云ルノ體々突ケトシ
テ非ナルト甚タニ六經六種ノ道ニテ其用同

カラス六經ハ道也書籍ノ名ニハアラス六經カ一
ツテモ闕テハ天下ヲ治ムルニ必ス不自由ナルトア
リヌトハ人ノ家居ニテ器財ノ用足ラサレハ其
事行カタキカ如シ故ニ六經ハ天下ノ國家ヲ治ル
六ツノ道具ナリト心得ヘキナリ朱子カ詩傳ノ
序ニ六經ノ中何レニテモ一經ヲ治メ得レハ修身
治國平天下ニテ他經ヲ用ルニ及ハス一經ニテ事々
ルト云ヒツノルヲ佛家ノ浮屠氏カ法華ノルハ
葦嚴ナトヲ一部ヲ主張シテ仏理コレニ盡キタリ

ト云カコトシ仏法ハ仏法ニシテソレニテモヨカルケ
レ凡聖人ノ道ハ然ラス六經ヲ通貫セオレハ
其用足ラス仁齊ハ六經ヲオクステ、用ヒス
只論語ヲ宇宙最上ノ書ト称シ修身ヨリ
平天下ニ至ルコト論語ノ外ニ出ルコトナシト
云コレ程子ノ胡説效聲スルトコロニテ聖学
ノ本旨ヲ得サル者ナリ冠履倒置ノヤカラ
論スルニ足ラサル僻説ナリ漢代ニハ六經ヲ学
國家ヲ治ムル政事ヲ用ヒ上ニハラレヲ行ヒ下ニ

ンコレヲ教化セシメラル、コレヲ經術ト称セリ
漢書ニ當用下經術明於大誼ヲトノ玉ヒシ是レナ
リ後世經術明ラカラス漢ハ孔子ヲ去ルコト未タ
遠カラス故ニ漢儒下經解ハ古訓ヲ失ハサルナリ
其度予別ニ論弁セリ今經書ノ要ヲ示シテ以
テ大旨ヲ知ラシム讀者ヨク屬シテ容易ノ着
ヲナスコト勿レト云

毛詩

論語ニ學而時習之ト云ヘリコレ礼記ニ春誦

琴弦秋學礼冬讀書トアリテ詩書礼樂ノ四術ヲ
學習スルナリ詩書礼樂ヲ學習シテ其義ヲ通
達シ其道ヲ行ヒ得レハ君子才德成就シテ天下
国家ヲ用ニ立ラ学者ノ成立トスル也其一者コノ詩
也詩ハウタイモノニテ簡冊ニカキ記スレテモナク童
兒ノ時ヨリ其師ニツキテ口チツカラ授カリテ歌ヒ
習フナリ其詞ハスナク今テアル詩經三百篇ノ詩
ナリ古人ノ詩ヲ學フハ今テノ世ノ人ノ謠ヲ習フ如ク
ナリ孟子ニ心之官ハ則思ト云ヘリ人ノ心ハ思フヲ官

レスルユニ閑暇無事ノ時テモ何ナリト思フナリハ
アルモノナリ況ヤ物ニ感スルナレハ其事ニ隨
テ或怒リ或哀ニ或樂ニ或ハ愛ニ或ハ惡ムト云
ヤフナ情カ内ニ起レ自然ト言ニアラワレ声ニ
發ス唯日本ノ和歌ト同シクニテサノミ脩己治
人ノ道ヲ説タル物ニテモナク治因平天下ノ法
示スモノニアラス唯古人ノ喜ヒニツケ哀ニツ
ケ輕キハ呻吟シテ重キハ咨嗟咏嘆ス人ノ高才
告ケ語ヘキヤフモナケレハ只其心ニ思フ所ヲ詞ニ

ツ、リ、テ、ト、ナ、出、ス、其、言、ノ、中、ニ、テ、人、情、ニ
叶、ヒ、言、辞、ノ、ヨ、ク、又、其、国、ノ、風、俗、ヲ、知、ル、ト、
キ、テ、聖、人、ノ、集、メ、置、キ、人、ニ、教、玉、フ、ニ、テ、コ、レ、テ、脩
己、治、人、ノ、爲、ト、セ、ヨ、ト、ハ、非、ス、凡、人、ノ、心、ニ、喜、怒、哀
樂、ノ、起、ル、ノ、ハ、皆、心、ノ、不、平、ナ、リ、コ、ノ、不、平、ナ
ル、思、フ、ハ、人、ニ、對、シ、テ、曲、折、ニ、述、ツ、ク、サ、ル、者、ニ
ア、ラ、ス、况、ヤ、人、ヲ、怨、ル、カ、又、人、ヲ、譏、ル、ヤ、フ、ナ、ル、
ハ、ア、ラ、フ、コ、ト、ハ、云、難、キ、者、ナ、リ、然、ル、ニ、詩、ニ、ハ、如、何、ナ
ル、コ、ト、ヲ、モ、言、ヒ、ツ、ク、シ、僅、カ、ノ、詞、ニ、テ、人、ヲ、諷、シ、ル、

モ、怨、ル、コ、ト、モ、云、ツ、ク、サ、ル、也、述、懷、ヲ、言、ヒ、バ、ラ、ス
モ、ノ、ハ、詩、ナ、リ、故、ニ、動、天、地、感、鬼、神、ト、ハ、云、ナ、リ
莊、子、ニ、詩、以、道、志、ヲ、ト、云、ル、ハ、コ、レ、ナ、リ、詩、ノ、根
源、ヲ、尋、ヌ、レ、ハ、虞、舜、ニ、起、レ、リ、舜、群、下、ト、天
下、ノ、政、事、ヲ、論、議、シ、玉、ヒ、卒、リ、ニ、股、肱、善、哉、元、首
起、哉、百、工、熙、哉、ト、歌、ヒ、タ、ヒ、シ、カ、ハ、皋、陶、ノ、云
臣、コ、レ、ニ、答、ヘ、テ、元、首、明、哉、股、肱、良、哉、庶、事
康、哉、ト、歌、ヒ、シ、コ、ト、書、經、ニ、出、タ、リ、コ、レ、詩、人、ノ、始
祖、ナ、リ、上、古、ノ、歌、詩、ハ、書、經、ニ、セ、タ、リ、詩、經

多ク周ノ世ノ詩ニテ殷ノ世ノ詩モ少シハ
雜レリ四詩六義云々アリ四詩トハ一曰國
風二曰小雅三曰大雅四曰頌コレナリ六義
トハ一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰
頌コレラ六義ト云フ先四詩一ニ國風トアルハ
諸國民間ノ歌謡ナリ今ノ世ノハヤリ歌ノ
ヤフナル者ナリ又田間ノ麥ツキ歌磨ヒキ歌
或ハ馭子ノ歌ナトノ類ナリコレラハ國々ノ風
俗アリテ詞モ声モ節モ各別ナルユニ總

テコレヲ國風ト云日本ノ萬葉集ノ歌ノ如シ中
ニモ卿大夫ノ作モアリ國君ノ夫人ノ作モアレ
凡國々ノ風俗ニテ各別ナルユニ一ツニ國風ニ編
入タリ其篇ノ中ニ男女夫婦ノ情モ云テアリ
親ヲ思ヒ子ヲ思フトモアリ又君ヲ恨夫トヲ
怨ムトモアリ刺ルトモホムルトモ云ヒテアリ
貧士ノ仕官ニ苦勞スルトモアリ凡ソ世間ニ
アリトナラユルトモ貴賤貧富善不美惡
皆云ヒ尽セリコレニテ世ノ風儀國ノ風俗モ

心ニウツリ吾心モ自ラニ人情ニユキワタリ高
位ヨリ賤キ人ノ了モ知リ男カ女ノ情ヲモ
知リ又賢キカ愚ナル人ノ心ヲモ知ラル、益
リニ小雅ニ大雅トイフハ雅ハ一ツナリ雅ハ
正也ト註シテ雅ノ篇ニ入タル詩ハ皆正詞ナ
リ民間ヨリ出タルニハアラス皆士大夫ノ作
ナリ天子諸侯ノ賓客ヲ宴スルニ音律ニアラセ
テコレヲ歌ハシム其事ニ大小アルユニ雅詩ニモ大
小アル了ナリ四頌トアルハ頌ハ容也ト訓ニテ形容

祖宗ノ徳ヲ也トアリテ先祖ノ徳ノ形容ヲホメテ
鬼神ニ告ナリ天地社稷宗廟ヲこツルトキノ樂
歌ヲ云ナリ頌ハホムル意ナリ頌モ皆士大夫ノ作
ナリ又六義ノ一ニ風ト云ルハ國風ノ了ナリ賦ト
云フハ目ニ見耳ニ聞ク了ラ咏シ出ス葛覃ノ章
ニ葛ノ覃ハ了テ徒于中谷トアルカ如キ賦ナリ比
ト云ハ何ナリ比假テコナラニ狀トリ作ル了其
ラ云シト思フテモサシカヒアリテ云ハレ又ユ余
ノ了比ト云麟之趾ノ章ノ如キハ公子ノ賢

徳ヲ麒麟ニ比シテ作レリ興ハ興起也トテ其
物ヲ見テ此方ノ夏ヲ思ヒ出スナリ關々睢牆在
河之洲ヲ見テ王者后妃ノ夫婦ノ徳ヲ思ヒ
出ス如キ類ナリ雅トハ大小雅ナリ頌トハ三頌ナ
リ皆詩經ニ出タリ中ニモ風雅頌ハ體ナリ賦
比興ハ法ナリサテ國風雅頌スヘテ詩ノ數三百
十一篇アリ論語ニ詩三百トイフハ其大數ヲ
アケタルナリコノ三百篇ノ中ニハ天子ヨリ庶
人ノ夏ニテ内外公私アラユルナラシテノ

コルナシ萬事ノ情ヲ知ルモノナリ諺ニ歌
人ハ生ラ名所ヲ知ト云カ如シ左傳ニ詩書者
義之府也トアルハ天下ニアリトアラユル人
情義理ヲ納タル府庫ト云フナリ古人
何ニテモ人ト物云テ義理ノナリ及ハ必詩
ヲ引テ己カ云フトコロノ義ヲ証明スナト
ハ大雅ニ穆々文王於緝熙敬止トアリ毛萇
口傳ニ止ハ即字也トス大學ニ止ノ一字ヲ証
トス断章取義ト云フテイカヤフニモ用ヒラ

ル、了ナリ自由自在ニ用ヒラルト云カ詩ノ本
旨ナリサレハトテ其詩ヲ作ルニ作者カアテモナ
キ了ラハ漫然ト云ヒシニアラサレト詩ハ徵言ト
テ其サス所ヲハキツト人ニ知サヌカ本意ナリソレ
ヲ聞ク人カアレハ何ト云了ラ含蓄シテ居ト云
了ラ知ルハ真ノ詩ヲ解セル人トスル了ナリ日本
ニテ戀歌ヲヨムニ只ハツトシテコレハ誰ヲ戀ス
ルト断ハラ子ト其ノ和解ヲ知レル人ハコレハ誰
ヲ戀スルト知ルヤ了ナリ了ナリタトハ古歌

ニ讀人不知トシテ。のふふふの思も
やうらんうううきやまの山乃峯此
白雪ト云歌アリ此歌ハ雲ヲ咏セシヤラ
ニモアリ又隱者ノ窠所ヲ思フト解シ又世
ノ中ノ無常ヲ我人ノ心ツカサル了ラヨミシ
トイロ々々ト解セラル、ナリ定家朝臣ハ
新古今ノ卷頭ニ戀歌ニシテ入レ玉へリコ
レ看ル了ノ精キナリ何ントナレハコレハ及ハ
又戀ノ意ニテ雲ニヨソへテ高間ノ山峯ニ

カ、リシ白雲目ニ見ルノミニテ我手ニハ入又ユ
ノヨソニノミ見テモフ思ヒ切テ休フト思ヘ
トフモヤメラレ又心ニ思フハカリ口ナニモ云ハ
レスト云フヲハ云ヒテワシタル歌ニテ葛城モ
高間モ雲モ皆借物ニテ彼ヲ借テ我カ情ヲ
述タルナリコノ歌ヲ隱者ノナニ取口フ云フ
咏セシトヒイカヤフ取義セラル、ナリ詩モ
又コノ如クナリサレハコソ詩經ノ詩ヲカフ々々
シタルトテ斯フ云フト注スルハ皆僻見ナリ

孔子ノ詩ヲ説キ玉ヘルヤ孟子ノ詩ヲ引タル
韓嬰カ外傳ナト史子ニ引用セルニテサトス
シ宋儒ハ是非邪正ノ見ニカラタラレ專ラ勸
懲ノ爲ナリト云ヒイロ々々ト理ヲ穿鑿スル
トハ腹ヲカ、ヘテ笑フニ堪タリ朱子カ注ハ見
サルヲ可トス詩ハ常ニ誦記スレハイットナク其
意モ領解スヘシ注解ハイラヌナリ文外ノ意
ヲ推シテタトハ、白雲トイハ目ニ見レトナ
ニトラヌト葛城ト云ハ岩橋ノ縁ノ夏高間

トイハ高フテ及ハヌト見テ行クハ詩經
召南嘒彼小星三五在東肅々宵征夙夜
在公寔命不同トアルハ后妃ヲ以テ月ニタト
ハ衆妾ヲ星ニ比シテ后ハ如月ニテ日ニ配スル
コトクツ子々君王ト配偶アルハ衆妾ハ星
ノ如ク后ノヤフニ常ニ配偶スルトナラス肅
々ト宵征スルニ至テ小星ノ東天ニアタルニタ
トテ福命ノ不同ナルトヲ云タルタクヒナリ
此ノヤフナルトハ毛萇カ傳鄭玄カ箋世本古

義說絢トトニテ見ルハシ其他ノ註ハ皆僻
說多シト知ルハシ

尚書

尚書トハ書經ノトナリ尚ハ上也上古ノ書ト云フ
ナリコレニ帝三王ノ典法ナリ二帝ハ堯舜三
王ハ夏禹殷湯周武ナリ虞書ハ堯典舜典
コレヲ二典ト云大禹皋陶稷契伯益伯夷夔
龍禹ノ臣アリ皆聖賢ニテ君臣ツ子ニ天
下國家ノ道ヲ論シ互ニ相戒メ威徳ヲ天下

ニ施シ行ヒ玉ヘルヲ記録シタルヲ三謨ト稱ス
夏書四篇ハ禹王大水ヲ治メ玉ヘルヲヨリ記
録シタル書ナリ尚書十七篇ハ湯王桀ヲ伐天
下ヲ取玉ヒシ支ヨリ記シ始メ君臣ノ言行ヲ
記セリ周書三十二篇ハ武王紂ヲ誅シ天下
ヲ取玉ヒシヨリ始テリ周ノ代ノ君臣諸侯
ノ正キ言行ヲ記録トシ後ノ法則トセシム
書經ノ篇數總テ五十八篇今現在セリ古
八百篇ナリシカ缺失テ半ハ傳ハラハ其支

淺見氏ノ六經編考ニ出セリ書ニ六體アリ
一曰典二曰謨三曰訓四曰誥五曰誓六曰命
コレヲ六體ト云一ニ典トハ典ハ法也トテ法則
トシテ守ルヘキ書ナリ二典是ナリニニ謨ト
ハ謨ハ謀也トアリテ群臣アツテリ其正法
ヲ論定シテ方法ヲ處置シ玉ヘル書ト云
ナリ三漠コレナリ三ニ訓トハ訓ハ教也其ア
シキヲイテシメヨキラ訓ユル書ニテ伊訓ナト
ノ類コレナリ四ニ誥トハ告ト同シ衆人ニ告ル

ト云フナリ大誥湯誥ノ類ナリ五ニ誓トハ誓ハ
盟也明也トアリテ誓約シテ信ヲ差サルヲ
誓ト云タレハ軍旅ナトニ誓ヒシ書ナリ其誓
湯誓ナトニテ考ヘ知ヘシ六ニ命トハ命ハ令也
トテ俗ニ云フイヒツケナリ上古ハ王ノ言ヲ命
ト云シナリ字書ニ大曰命小曰令ト註セリ
帝王ヨリ臣ニ命シテ官人トシ或ハ諸侯トオ
シ玉フ命令ノ書ナリ說命畢命ノ類ナリコ
ノ六體ニテ文章ノ體皆同カラ子トモ皆先

王ノ法言ニテ天下國家ノ軌範規則ナリ書
ニ天下ノ正法ヲノセ詩ニ天下ノ人情ヲツク
ス詩書ハ義之府也ト云ヘリ天下ノ義法詩
書ノ二經ニ納リテアリサレハユツ古人事ヲ論
定スルニハ必ス詩ニ曰ト詩ヲ引サレハ書ニ曰云云
ト書經ヲ引テ我言ノ微トス車ヲ横ニオサシ
トスル程ナル無理ナル者ニテモ先王ノ法言ヲ以
テ証トスレハ聞ク者ユレヲ破ルヲ得ス古
ハ書ト云モノハ書經ハカリニテ外ニ書ト云モ

ノハナシ故ニ只書トハカリ云ヒシヲ漢ノ伏生
ト云人ヨリ尚書ト云尚ハ上ナリ尊称ナリ
トテタツトヒテ尚書ト云論語ニ何必讀書
トアルモ孟子ニ盡信書不如無書トイハル
モ皆書經ノナリ文義ヲワカツハ先孔
安国ノ解ヲ可トス新注ハ宋ノ蔡沈カ著作
ニテタツトモナキモノナリ初学ニハ書經旁
通考ト云モノニテ見シ訣ヲ附シテ解スレ
ハ甚ヨク分辨スルナリ他注多シト云此皆無

益為害ノモノナリト知ルシ

廿五入末分三極又
と表ハ理付重ク
多ク

是道三教ともなりて之を以てハアノル
上聖場ト云ふ由は之の亦し中ノ福と
只々之を以て用能と持て之を以て
在り末ニアノ由縁と由縁とニツ
由縁ト云ハ秋ノ外ハ有る由縁ト云
有る但お多由縁ト云ハ格好ト云ハ多

經要覽上終

經要覽下

徂徠先生口授 門人 平義質筆受

禮記

礼天下ノ万事ノ儀式也コレヲ学フハ今ノ人ノ
吉良小笠原ナトノ諸礼故實ヲ習フカ如シ書
籍ヲ讀ニモ及ハス只其所作ヲ習フヲ以テ主ト
ス礼記ハ其諸礼ノ次第書ナリ秦漢以後ハ
古礼經ハヒテ僅ニノコルトコロ儀礼周礼礼記

大戴礼ナリ儀礼ハ古ノ礼經ノ殘篇ニテ經礼
三百ノ数ノ中ナリ周礼ハ周代ノ官職ヲ記ス礼
記ト大戴礼トハ孔子ノトキ門人ト礼ヲ講シ玉
ルヲ記録シテ傳ヘタルナリ漢ノ世ニ及テ戴氏
ノ家ヨリ傳ヘシユニ戴記ト稱スコレラノ禮
書ヲ契讀シテ古礼ハコノヤフナ者ト知テ今世
ノ俗礼ノ是非ヲ考ヘ人ニ高フラス謙退シ事ヲ
ヒカメニ行ヒ容儀ノシタラクナラサルヤフニ行フ
ニシ經解篇ニ恭儉莊敬ハ礼ノ教也トアルハ

是ナリ孝經ニ安上治民莫善於禮トイ
ヒ左氏傳ニ礼ハ經國家定社稷序民人利
後嗣者也ト云礼五礼アリ一曰吉礼二曰凶礼
三曰賓礼四曰軍礼五曰嘉礼ナリ吉礼ハ祭
祀ノ礼ナリ凶礼ハ喪礼ナリ賓礼ハ賓客ノ礼
ナリ軍礼ハ軍旅ノ礼ナリ嘉礼ハ冠礼トテ元
服ノ礼婚礼トテ婦ヲ娶ル礼トテ嘉礼ト云
コノ外ニ古ハ鄉飲酒礼トテ鄉黨ノ人ニ酒ヲ
ノヒシムル礼トテ士ト大夫ト相見スル礼

アリ冠婚喪祭ノ四ツハ天子ヨリ庶人ニテアル礼
ナリコレニ郷飲酒士相見ノ二礼ヲ加ヘテ六礼ト稱
スコレヲハ經礼ト云テ三百餘條ノ定テレル儀式アリ
リ又各々小節目カアリテ三千餘條ノ定テレル
條目アリテコレヲ曲礼ト云コト々々ク師ニツイテ習
ハサレハ行フコトアタス孔子ノ聖智スラ老子ニ問学
ヒ玉ヘリ今世ノ俗礼サヘモ次第書ハカリニ見テ傳
授ヲ受ケ子ハ其事ハ行ハレス况ヤ先王ノ礼ヲ学ス
シハ知ルヘコラスサレトモ古礼ヲ傳ヘ記ストイ

トモ指訣カタヘタレハ悉ク知ルヘコラス只儀礼
周礼礼記ナトヲヨク々々熟讀シ文ノ簡ニシテ
辨シ難キハシハラク鄭玄カ注ニシタカヒ或ヒハ孔
穎達カ疏ニ考ヘ左傳管子孟子荀子論語家語
ナトノ書ニ古礼ノ文雜見セリ古書ニ考ヘテ領
解スヘシ礼義ト連用シ礼義アルハ人ニ魂ノ了
ル如シ礼運ニ礼也者義之實也ト云ヘリ先王
ノ道ハ人ノ必ススヘキ事ト又スヘシギ事トヲ定
メ置ルコレヲ義ト云其辨ハクワシク予弁名ニ論

シタレハ今ハ畧ス唯礼ハ人ノ行ヒテ主トシテ教
ユルモノナリサ庄子ニ礼ハ以道行ヲトアリ宋儒
カ礼ヲ説クハ老女ノ小娘ヲシツケル如キトニテ瑣
々碎々タルナリ礼ハ国之幹也ト左傳ニ出
タリ国家ニ於テ肝要ナルハ礼ナリト云言ナ
リ礼記ノ新注ニ礼ノ集註ハ寺子屋ノ師匠
カ冕タレ子ニ指授スル如キトノミヲ云テ古礼ノ
旨ヲ得ス文ノ義解モ皆畔岸セリ先鄭氏ニ
隨ヒテ研精スヘシ礼樂トテ歌舞管絃ノ藝

ヲ樂ト云樂師ニ就テコレヲ學フコレモ書籍ヲヨ
ムニ及ハス譜ト云モノヲ書キツケテ傳授スル其
書ヲ樂經トモ樂書ト云其書今ハ亡ヒテ傳ハ
ラス唯礼記ノ中ニ樂記一篇ノコレリ惜ムヘシ樂
律ハクワシキトハ予別ニ樂制樂律ノ二書ヲ著
編シ又樂語瑣言ニ論シタレハ今ハ畧ス襟要
ト考互スヘシ

易經

易ハ六十四卦三百八十四爻ニ文王周公ノ辞アリ

リ易ヲ学フハ陰陽變化ノ道ヲ知シカ爲ナリ易
ハ變易ノ義ニテ往來變化ノ名ナリヲモク々天地
開闢シテヨリ陰陽ノ二氣往來變化スルヲ暫
クモヤヒス往來ハ晝夜寒暑ノ如キヲ云變化ハ
生成榮枯ノ如キ是ナリ又易ニ數アリ數ハ物
ノ命數ナリ君子易ヲ学ハ命ヲ知リ數ヲ知リ
時ヲ知ルユ一惑フナシ暮ヲトリ卦ヲ立テ筮ス
レハ事ノ吉凶見エテ疑ヲ決スルナリ筮ヲステハ
更ニ他術ナシコレヲ今日ノ瑣碎ナルナリ用ヒタルハ

心得ナカレナリ天下国家ノ変ニ預リテ其用
重シ君子コレヲ学ハ心ノ疑慮ノソキ清潔ニ十
リ勤轉スルナリヤミテ静カニナリ陰陽變他理
ニ達シタルコトニナル故ニ礼記ニ繫辭精微易ノ
教也ト云係辭傳ニ聖人以此洗心トイヘリ莊
子ニ易以道陰陽ト皆易ノ至極ナル言ナリ
君子四術ヲ学ヒ成テ易ヲ学フトキハ陰陽變
化ノ理ヲ知テ事ニ惑ハス故ニ六經之中ニ入レリ
上下經ハ文王周公ノ辭ナリ十傳ハ孔子コ

春秋

レヲ述作シ玉フナリ魏ノ王弼コレヲ注セリ羊
ニシテ卒ス韓康伯コレヲ嗣作セリ易ノ諸
注多シトイヘイテ夕其旨ヲ得ス程伊川ノ
易傳朱子ノ諸論ハ區々トシテ用ルニ足ラス
魯国ノ史官ノ記録ナリ左傳ニ国之大事ハ
在祀典戎ト云テ祭祀ト軍旅トラ以テ国家
ノ大事トス然レモ祭祀ハ常例ノ支ナリ軍
旅ハ非常ノ事ナリ皆ソレ々々ニ定法アリ国

家ノ支ハ朝聘ヲ以テ大祀トス朝聘トハ朝ハ朝
觀ナリ今日本ノ諸侯東都ニ參觀スルカ如シ諸
侯ノ天子ニ朝スルノミナラス諸侯ト諸侯ト相見スル
ヲモ朝ト云聘ハ諸侯ナリ使ヲ天子ニ使ハシ又諸
侯ニ使ハスヲ聘ト云卿ヲヤルヲ大聘ト云大夫ヲヤ
ルヲ小聘ト云フソノ朝聘ハ時節一同ナラサレ四
時ノ中テ春秋ヲ時トシテ行フユ節春秋ト云
故ニ国史ヲ春秋ト名ク漢書藝文志ニ假日月以
定曆數藉朝聘以正礼樂トス（リ）古ハ諸侯ノ

因ニハイツレモ各々春秋アリ其事國語ノ申
叙時カ言ニ見ヘタリ今六經中ノ春秋ハ魯ノ
春秋ナリ孔子ハ魯人ニテ我本國ノ春秋ヲ修
造シテ世ニ傳ヘ玉ルニ他ノ春秋ハ傳ハラズ
魯ノ春秋ノミ後世ニ存セリ礼記ニ屬辭比事
ハ春秋ノ教也トアリ屬辭ハ辭ヲツル丁朝聘ノ
トキニ辭令ヲ善クカク丁ナリ辭令ハ今ノ世ニ云口
状ナリ比事トハ事ヲ凌スルニソシ先例ヲ引テト
一サダ丁ナリコレヲ六經ニ入ル丁ハ國政ノ善惡天

地ノ災變君臣ノ行事ノ得失國家ノ治乱
ヲ皆明々トカキ記シアルニ實録ナルニ大
疑ヲ決シ大謀ヲ立ルニ鏡トナルニキ者ナレハ
ナリ其クワシキ丁ハ史要覽ニ矣スルカ如シ
古來ウロタヘ學者一字ノ褒貶ト云丁ニカ、
ハリ泥ミテイロ々々ト穿鑿安解ス必ス信
スヘカラス宋ノ胡安傳カ注ハ安說殊ニ甚
シク齒及ニタラスト知ヘシ唯左氏傳ヲ
發讀シテ二百四十二年ノ事實ヲ考ヘ

頌解ス、シ宋儒ノ如キ一字ノ褒貶ヲ要ト
ノ春秋ヲ説クトキハ君卿大夫士過半有
罪ノ人ト云ヒナス笑フ、キ、トヒナリ故宋儒カ
六經ノ解ハ皆謬妄ト知ル、シ仁齊ナトモ宋
儒ヲコホテ凡六經ヲ抄ステ、用ヒヌユ、孔門ノ大罪人

論語

論語ハ孔子ノ緒言ヲアツメシ書ナリ緒言ト
テ一篇ヲ爲シ六經ノ中、アミ入レ難キ短キ
言トモヲ一ツニ集撰シテ此書ヲナスナリ論ハ論

定ノ義トテ吟味スルコトナリ唐虞ヨリ三代
及ヒ春秋ノ時ニ至ルニテ人物ノ善惡ナト混殺
シテ適從スルコトナキニ孔子ノ只一ト言ニヨリテ
天下後世凡人モ其喙ヲ置クコトナシ皆孔子
ノ言ヲ以テ斷凌スルユ、論定トハ云ナリ語ハ
惣シテ人ノ效ヘニモナル、キ言ヲハ語ト云ナ
リ此書ハ孔子ノ門人ニ對玉フ諸言ヤ又國
君大夫ニ答ヘ玉ヒシ言孔門ノ賢弟子ノ語
ナト其外效ヘトナル語ヲエラニ出シテ一書

トナスヨリ上篇ハ学而ヨリ郷黨ニテ琴
子張ノ撰ナリ下篇ハ先進ヨリ堯曰ニテハ原
子思ノ撰トス其支クワシク徴ニ出セリ邢昺カ
疏ニ論ハ綸也輪也理也次也撰也以此書可經
綸世務故曰綸圓輪無窮故曰輪蘊合萬理篇
章有序故曰次群賢集定故曰撰トナリ又
劉惔カ説ニ昔仲尼微言門人追述故仰其經
曰稱爲論語ト蓋群論立名始于茲矣トイ
リコナリノ諸説皆ナ其旨ヲ得タルニ似タリ然

レ氏左傳ノ段落ニ必ス君子曰ヲ以テ断没ス
トイハレ猶モ其ウタカワシク分辨シカメキト
ハ亦皆孔子ノ言ハラ以テ断語ヲナスヲ見レハ
論定古言トイハレ説ヲ可トスルニ非スヤ學者
論語ニ云フ所ノ言語ヲ以テ六經中ニイハレ
言ニ引アテ、此彼ヲ徴映シテ見ルニキハ注
解ヲ待スシテ其本旨ヲ領得スシテ論語ノ注
家ハ古今紛々トシテ區々叔々トシテ一定ナラ
ス前漢ヨリノ古説ハ魏ノ何晏編輯シテ集

解ヲ作レリ學者ノ先覽スヘキ所ナリ皇侃ノ
疏尤モ讀スシハマルヘカラス邢昺カ疏モ各一
覽スヘシ唯朱子カ新注仁齋カ古義ナト謬
妄ノ解半ハニスキテ却テ累トナル所ヲホシ予
徴ヲ著シテユレテ詳論セリ聖人ノ道ハ仁ヨリ
肝要ナルハナシ仁ヲ慈悲ト心得ル者多シ慈悲
ニサテ々々アリ惻隱之心仁之端也ト孟子ニ云ヒ
シハ子細アルトナリ仁ハ民之父母トナルトナリ孔
子モ吾道一以貫之ト仰ラレシナリ何莫モ々々

皆仁ヲ以テ通貫スルトナリ宋儒ハ其仁ヲキステ
テ別ニ理ノ一字ヲ拈出シテ佛法ヲ陰竊シテサテ
々々ノ七女説ヲ吐クコト憐ムヘキノ甚キ故ニ新注ハ
見サルヲ以テ可トス論語ノ作者ハ古ヨリイロ々々
ト論議シテ定コラス漢ノ鄭玄ハ仲弓子游子
夏ノ撰定スト云唐ノ柳子厚ハ有子曾子ノ二
門ノ子ニナルト云ヒ宋ノ二程子ハコレニ隨ヒテ説
ヲナス有子曾子ノ二子ノミ子ヲ以テ尊稱スト
云テ証トス然レモ論語中ニ関子冉子ト稱セシ

所アレハ一涯ニモ証ニナラス又礼記註疏鄭君
自録ヲ見ルニ曾子ヲ以テ姓名トス一ノ名ハ子又
一ノ名ハ參トアリ曾子ヲ姓名トイヘル説アリテ
曾子問ナト、名目スルトキハ的當ノ説ニヨラス
予上論ニ牢曰トイヒ下論ニ憲問アルヲ以テ
考コフルトキハ上論ノ文ハ簡ニシテ奇ナリ下論
ノ文ハ詳ニシテ實ナリ彼此相考ルトキハ上論
琴張ノ手ニナリ下論ハ原憲ノ手ニ成シテ照
然ナリ其用証十例アリ別ニ論ス琴張ハ琴

ハ姓名ハ牢字ハ子開トモ子張トモ云衛人ナ
リ原憲字子思宋ノ人ナリ大戴礼ニ原憲
ハ宋人孔子ノ卒後退テ隱テ衛ニトアリ上下
ノ論共ニ二子ノ性行ニ其文ヨク相似タリ故ニ予
断シテ爾イフナリ

孝經

孝經ハ曾子門人ノ手ニ成ルト云ツタフ孝ハ百
行ノ本トイヘハ尤モ行ハスニハアルカラス宋学
ノ徒孝經ヲ瘞シテ用ヒスユレ偽書ナリト

号シ或ハ錯簡ナリト云テ今文孝經隨テ
朱子ハ刊誤ヲ作リテ安リニ古經ヲ刊刪
ス懼ルキノ甚シ孝悌爲仁之本與トイヒ
又孝徳ヲ稱シテ至徳トイヒ孟子モ堯舜
之道孝悌已矣トユフ天子ヨリ庶人ニ至ルテ
テ各々行ハスンハアルカラサルナリ古文孝經
ハ孔安国ノ傳フルトコロナリ或人曰孔カ傳繁
ニシテ其言書傳ト異ナリ故ニコレハ後人ノ
偽作スルトコロト云 予案スルニ身體髮膚受

之父母ト云以下ヲ五刑ヲ以テ注スルトコロ又
道者扶持萬物使各絡其性命者也ト云
ナトハ善ク其古聖人ノ旨ヲ得タリ故ニ予
ハコレヲ孔カ所作トス其他孝經諸注アリ
吳注ナトハ其說奇ナルアリ玄宗皇帝ノ御
註アリ刑曷コレヲ曰テ疏ヲ作ル皆一覽ノウ
ニコレヲ古書ニ証シ是非得失ヲ知シス
經傳ヲヨムニ訓詁ヲ恃ムコラス白文ヲ以テ思
謀ス 註ヲタノミニスルモノ重聞ユ 其本

ヲ得スノケンケケニカワリ違ヒテ後ニハ基本ヲ失
ヒ果スルナリ千歳逝キ日月モウツリ來レ尙
モカモ古トハ大ニ千カヒ俗ウツリ物カハリ凶ヒ
テ註モタノミニハナラヌナリ唯タ古言ノてタカ
ワラヌ頃ノ書ヲ熟讀シ其辭ノ古ナルヲ本
ニシテ古言ヲ見ルヘシ管子晏子春秋老子
莊子列子ナトハ道ハ大ニ千カヒトモ其道ニハカ
コトス道ハ道辭ハ辭トシテ見ルヘシ皆古文
ニテ古言ナリ古文ノ言ハ今言トハ大ニ違ヘリ

古人ノ辭ノワカヒヤフ置ヤフコトモ後世トハ
大ニ相カワレリ故ニヨリ古書ニ熟シテ後世
ノ書ヲ見ス自誓テ宋儒ナトノ註疏ヲ見
ス秦漢以上十三家ノ書ニ習レテカシクテ
及覆テ寧ニ書ヲ熟セハ自然トソレニ習レ其
文ノ辭氣皆古文ニナリナリセハ古人之心知
ルヘシコレヲ千歳旦莫千里比肩トハ云ナリ其
内注解ヲ見子ハナラヌナリアラハ漢儒ノ詁
訓ヲヨシトス漢儒ノ注ハ多ク七十子ノ師授

口傳ニ得テ後世ノ宋儒ナトノ及フ所ニアラス

此他ニ經書アリト云ヘトモ先ヨノ六經孝經論

語ヲ先トス今ノ學者六經ノ義ヲ知ラス古ヨ

リ此六部ノ書籍アリシト思フハ謬ナリ六經

ヲ書籍トシテ傳フルハ孔子ヨリ以後ノ十

リ六經ノ中ニテ書籍ト云モノハ書經ト春秋

トノ二經ナリ詩ハウタイモノナレハ歌ツテ覺ユル

モノ易ハ六十四卦ノ象數ヲ知テ覺ユルモノ礼樂

ノニツハ其式ヲ習フノミナリ故ニ六經ハ道ノ

名ニテ六藝トモ云フナリ六經ハ物ナリ論語

義ナリ六經アレハ論語アリ六經ヲ廢スレハ論

語ハフナリトシタル議論ノ空言トナル仁齋ハ六

經ヲ論語ノ下ニ置キ論語一部ヲ至極最上

ノ書トスコレ劍術ヲ習ハスシテ勝負ノ理ヲ

談スルカ如シ何ソ其本旨ヲ得ンヤ學問ノ道

ハ聖人ヲ信スルカ第一義ナリ聖人ノ知ハ大

ニ仁ハ至レリソノウヘ思慮モ深

遠
故ニ

上古ニ立ラキ玉ル法術ハ千萬世ノ後ニモ
叶ハサルコトナシ後儒コレヲ知ラス聖人ヲ信ス
ルコト浅クシテ別ニ居敬窮理良智ナドイロク
々ノ名目ヲ立テ、疵瘡ヲ生スルコト悲シカラス
ヤアテツサハ六經ヲ信スルコトウスキ子思孟子ヲ
貴フコト孔子ヨリモ甚シ故ニ其所見臆説牽
強古ニ支離スルコト多シ唯ヨク古書ニ爛熟シテ
古人ト徒ナルコト然レモ學問ヲスルニ天命ヲ
知ラサレハ君子トハナラレス不知命無以為君子

トモ云ヒ又天命之謂性ト云テ人各々其生レ
得ルトコロ別々ナレ其成ル徳モソレ々々ニカハルコト
ナリタトハ稟實ノ如シ最初花落テ實ヲ
ムスフトキ其数ハ幾千一カト云フヲ知ラス月日
ヲフル内ニ其實熟スルヲ待スシテ落ルモノ過
半ナリ熟スルトキニ及テ樹上ニトセテル者ハ僅
ニ十二三ナリ造物ノ所為トイヘモ其物定ミレバ
命ナリ又陶工ノ器ヲ作ルニ数千ノ内ニイ
セタヤカ又内ニ破ルアリ燒テノ年ニ破ルアリ

其成就セル中モ又日キアリ惡キアリヨリ
人ノ用ニ立ツテ幾ホトモナク破レ失ルアリイツ
々々セテモ久ク用ニ存スルアリコレハ人ノ手ニ
テ作ル者ニテ造物ノナス所ニアラ子トモ又其命
数アリ孔門ノ諸弟子モ各々其生レツキノ自
然ニ得ルノ近キコロヲ得テ或ハ言語ハ宰我
子貢文學ニハ子游子夏ト云フヤフニ手ニ々々
ノ得手アリコレ其性ノ近キ所ナリ豈孔子
ノ教ヤツカ足ラヌト云テハナイ大ニ生スヘキ者

ハ大ニ生シ小ナク生スヘキ者ハ小ニ生時雨ノ惠ニ
ヨルトイヘ氏實ハソレ々々ノ命ナリ左傳ニ子産
カ人心之不同如其面トイヒ孟子ハ物之不齊
物之情也トイヘリ君子ハコノ命ヲ知ルユニ
其性ノ及ハヌトコロヲハムリニハセヌナリ故ニ宋儒
カ人皆可爲聖人ト云ノハ非ナリ其ヨクスル處
其大ナル小ナルハ人ノ性異ニシテ一ナヤフナラス其
ノウケニアル性ハ易ルナリアタラス故ニ宋儒カ
變化氣質ヲトイヘル非ナリ唯天ノ命スル所

ニヨリ其器ヲ成就シ財能ヲ達シテ天職ニ
代リテ務ムルハ古道ナリ故ニ邊國田舎ニ生レテ
ヨキ師ヤ学友モナク偏屈ナルモ命ナリ又ヨキ
師ヨキ学友ヲ得テ其道ヲ聞キ達秀スルモ命
ナリ家貧ク書籍ヲ得ルナク難ク學問ノデキ
カヌルモ命ナリ予学則一篇ヲ著シコレヲ詳論
セリ易ノ象傳ニ消息盈虚與時偕ニ行フト
イハルハ消ノ時ナレハ消ノトキト覺悟シテウレラ
ルナク息ノトキニアタレハ息ノ日久シカラス
シテ又消スト思フテ恐懼ヲ忘レスソレ々々ノ時
ニ隨テ易キ道ヲ行フナリ然ルハ自天佑之ト
アリテ神ノ助通スルナリシコレ經傳ヲ精覽ス
ルノ肝要ナル者ナリ

經要覽下 終

津南 小田真篤再校

